

公益社団法人 日本水産学会  
平成 28 年度第 6 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 28 年 12 月 10 日(土) 13 時 02 分～15 時 10 分
- 2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学  
品川キャンパス 2 号館 2 階 200A-2 会議室(東京都港区港南 4-5-7)
- 3 理事総数及び定足数  
総数 17 名, 定足数 9 名
- 4 出席理事数 13 名  
(本人出席) 秋山秀樹, 荒井克俊, 荒井修亮, 菅野信弘, 木島明博, 黒倉 寿, 佐藤秀一, 青海忠久,  
塚本勝巳, 萩原篤志, 山下 洋, 良永知義, 和田時夫  
(監事出席) 青木一郎, 北田修一  
(幹事出席) 荒川久幸, 鈴木直樹(13 時 10 分に着席), 芳賀 穰, 糸井史朗, 二見邦彦, 小林武志  
(オブザーバー) 岡崎恵美子(理事候補者), 重 義行(理事候補者)

5 議 案

決議事項

- 第 1 号議案 「東北支部長の交代」の件
- 第 2 号議案 「平成 28 年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件
- 第 3 号議案 「水産政策委員会運営規程の一部改正」の件
- 第 4 号議案 「会費免除承認」の件
- 第 5 号議案 「水産増殖懇話会委員会委員の交代」
- 第 6 号議案 「Fisheries Science 83 巻における会員販売促進の継続」の件
- 第 7 号議案 「後援」の件
- 第 8 号議案 「入会承認」の件
- 第 9 号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

報告事項 第 5 回理事会以降の職務執行の状況  
その他

6 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

塚本会長が定足数の充足を確認し, 続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき, 塚本会長が議長となり, 本会議の成立を宣言し, 議案の審議に移った。

(決議事項)

第 1 号議案 「東北支部長の交代」の件

佐藤総務担当理事から, 現東北支部長の定年退職に伴う交代の申し出について説明があった。審議の結果, 東北支部長の交代を出席理事全員一致で可決した。

第 2 号議案 「平成 28 年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件

荒井(克)学会賞担当理事より, 9 月 8 日に開催された学会賞選考委員会において審議した平成 28 年度日本水産学会各賞受賞者について原案の説明があった。審議の結果, 同選考結果の説明資料を一部修正し, 出席理事全員一致で原案の通り可決した。

日本水産学会賞

今井一郎 「有害有毒プランクトンの発生機構と発生防除に関する研究」

菊池 潔 「ゲノムワイド解析によるフグ性決定遺伝子の同定」

日本水産学会功績賞

嵯峨直恆 「水産植物学研究を生かした社会連携の体系化」

杉田治男 「水産増養殖に関する微生物学的研究」

日本水産学会進歩賞

江口 充 「魚類養殖に関わる環境微生物の生理生態学的研究」  
岡村 寛 「統計モデルを利用した斬新な水産資源評価・管理手法の開発」  
北門利英 「水産資源解析における推測法高度化と遺伝学的モデリングに関する統計学的研究」  
藤本貴史 「ドジョウをモデルとした発生・生殖生物学と育種支援技術開発に関する研究」

#### 水産学奨励賞

高野倫一 「分子生物学的手法を応用した魚類病原体に対するワクチンの開発」  
長澤一衛 「分子マーカーによる水産上有用魚貝類の生殖細胞の同定に関する研究」  
渡邊壮一 「浸透圧調節ホルモンプロラクチンの分泌調節ならびにその作用に関する研究」

#### 水産学技術賞

水藤勝喜 「クルマエビ採卵技術の高度化とその普及」  
野口勝明 「温泉水を用いた閉鎖循環型トラフグ養殖システムの開発」  
増田賢嗣 「ウナギ仔魚の飼育技術の高度化に関する研究開発」

#### 第3号議案 「水産政策委員会運営規程の一部改正」の件(別紙 1)

黒倉水産政策担当理事から、水産政策委員会運営規程の一部改正について原案の説明があった。  
審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

#### 第4号議案 「会費免除承認」の件

佐藤総務担当理事から、磯 直道、柏井 誠、春日清一、下村道子、難波憲二、林 勇夫および山川  
紘各会員の会員に関する規則第5条(1)に基づく会費免除申請について説明があった。審議の結果、  
申請のあった7名の会員の会費を平成28年度から免除することを出席理事全員一致で可決した。

#### 第5号議案 「水産増殖懇話会委員会委員の交代」の件

佐藤総務担当理事より、水産増殖懇話会委員会委員の交代について原案の説明があった。審議の結  
果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

[辞退]清水智仁 [選出]武部孝行

#### 第6号議案 「Fisheries Science 83巻における会員販売促進の継続」の件

佐藤総務担当理事から、Fisheries Science83巻における会員購読促進の継続について説明があった。  
審議の結果、会員販売促進の継続を出席理事全員一致で可決した。

#### 第7号議案 「後援」の件

佐藤総務担当理事から、後援について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可  
決した。

The 14th International Symposium on Biomineralization(第14回国際バイオミネラリゼーションシン  
ポジウム)

主催 バイオミネラリゼーション研究会  
後援 日本農芸化学会 他10団体  
日程 平成29年10月9日(月)~13日(金)  
場所 つくば国際会議場(茨城県つくば市)  
希望 後援  
負担金 なし

The 16th International Echinoderm Conference(第16回国際棘皮動物学会議)

主催 第16回国際棘皮動物学会議組織委員会  
共催 名古屋大学博物館  
後援 日本動物学会、日本古生物学会  
日程 平成30年5月28日(月)~6月1日(金)  
場所 名古屋大学東山キャンパス野依記念学術交流館(愛知県名古屋市)  
希望 後援  
負担金 なし

#### 第8号議案 「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

#### 第9号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

(報告事項)

第5回理事会以降の職務執行の状況

・会長

塚本会長より、次の報告があった。

- 1) 11月16日に開催されたブループラネット賞の表彰式に出席した。
- 2) 11月21日に開催された国際生物学賞の授賞式に出席した。
- 3) 12月3日に開催された海とさかな自由研究・作品コンクールの表彰式に出席し、日本水産学会会長賞を授与した。

・庶務関係

佐藤総務担当理事より、次の報告があった。

- 1) 資格喪失者(会費未納)の会費納入による退会者への変更について  
前川行幸(正会員,平成27年度資格喪失)
- 2) 協賛について  
共催,協賛,後援の取り扱い申し合わせ3)を適用した。

第54回アイソトープ・放射線研究発表会

主催 日本アイソトープ協会  
協賛 応用物理学会 他61団体(予定)  
日時 平成29年7月  
場所 東京大学農学部弥生講堂(東京都文京区)  
希望 協賛  
負担金 なし

・企画広報関係

良永担当理事より、次の報告があった

- 1) 第6回委員会を11月9日に開催した。
- 2) CiNiiのみに掲載されている日本水産学会誌65巻1号~75巻1号の企画記事のCiNiiにおける公開が2017年3月に終了する。

・財務関係

山下担当理事より、各支部と各委員会等の担当理事に対し、事業計画・予算書と事業報告・決算報告の提出期限を厳守するよう依頼があった。

・編集関係

黒倉担当理事より、次の報告があった。

- 1) Fisheries Science誌のインパクトファクターの低下への対応策を検討している。
- 2) 平成28年度国際情報発信強化事業進捗状況報告書について説明があった。

・学会賞関係

荒井(克)担当理事より、各賞の推薦書式の変更を検討している旨報告があった。

・シンポジウム関係

木島担当理事 特になし。

・出版関係

木島担当理事より、次の報告があった。

- 1) 水産学シリーズの発刊の準備を進めている。
- 2) 次回委員会を1月13日に開催する。

・水産技術誌監修関係

秋山担当理事より、次の報告があった。

- 1) 水産技術誌9巻1号の発刊に向け11月14日に編集委員会を開催した。
- 2) 水産技術誌9巻2号の発刊に向け12月26日に編集委員会を開催する。
- 3) 「アサリの垂下養殖技術」に関する特集号を水産技術誌9巻3号として発行予定である。
- 4) 1月末に第1回委員会を開催する。

・国際交流関係

和田担当理事より、次の報告があった。

- 1) 11月2～4日に開催された中国水産学会へ萩原副委員長と胡委員が参加した。
- 2) 中国水産学会と日本水産学会との学術交流協定を更新した。

・水産教育関係

荒井(克)担当理事より、第35回「海とさかな」自由研究・作品コンクールについて報告があった。

・水産政策関係

黒倉担当理事より、エコラベルの国際相互認証について議論を行っている旨報告があった。

・漁業・資源管理関係

荒井(修)担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成29年度春季大会において、講演会「持続的漁業に最適な漁業技術とは」(仮)を3月26日に開催する。
- 2) 委員会を3月26日に開催する。
- 3) 平成29年度漁業懇話会奨励賞の受賞者(3名)を決定した。

・水産利用関係

菅野担当理事より、次の報告があった。

- 1) 第2回講演会「HACCPと水産物流通」を1月6日に開催する。
- 2) 第3回委員会を1月6日に開催する。

・水産増殖関係

木島担当理事 特になし。

・水圏環境関係

山下担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成29年度春季大会において、シンポジウム「水産環境におけるプラスチックの汚染と影響」を3月26日開催する。
- 2) 類似したテーマのシンポジウムが同日に開催されないよう、可能な限り日程調整して欲しい旨依頼があった。

・男女共同参画関係

良永担当理事より、次の報告があった。

- 1) 男女共同参画学協会連絡会によるアンケート調査が終了した。アンケート総回答数は約1800名で、そのうち水産学会からは約800名であった。
- 2) 日本水産学会としても、アンケート結果を分析する。
- 3) 平成29年度春季大会において、ランションセミナー「水産学会におけるやさしい男女共同参画」を開催する。

・社会連携関係

塚本会長 特になし。

・将来計画関係

青海担当理事より、各委員会等に将来に向けての問題提起等を各担当理事に照会するとの報告があった。

・北海道支部、地域連携関係

塚本会長 特になし。

・東北支部、地域連携関係

秋山担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成28年度日本水産学会北海道-東北合同支部大会を10月22日と23日に開催した。参加者総数79名のうち講演数は56名であった。
- 2) 北海道・東北支部の若手会の講演会「クロマグロの資源管理と漁業者、加工業者が生き残る道」を10月22日に開催した。
- 3) 10月27日に開催された全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表大会の東北地区大会で支部長奨励賞を授与した。
- 4) 幹事会と連絡調整委員会の合同会議を10月22日に開催した。

・関東支部、地域連携関係

菅野担当理事より、平成 29 年度春季大会の準備状況について次の報告があった。

- 1) 高校生の発表のための補助金を申請した。
- 2) 大会のウェブページを公開し、参加申込の受付を開始した。
- 3) 懇親会を東京海洋大学品川キャンパスの体育館で、ポスター発表を同中部講堂で行う。

・中部支部、地域連携関係

塚本会長より、次の報告があった。

- 1) 支部大会を 12 月 3 日に開催した。
- 2) ミニシンポジウム「若狭湾と若狭小浜を知って地域活性化につなげよう」を 12 月 3 日に開催した。

・近畿支部、地域連携関係

荒井(修)担当理事より、平成 28 年度日本水産学会近畿支部例会と幹事会を 12 月 18 日に開催する旨報告があった。

・中国・四国支部、地域連携関係

塚本会長より、次の報告があった。

- 1) 平成 28 年度日本水産学会中国・四国支部例会を 10 月 22 日に開催した。参加者総数 68 名のうち日本水産学会会員は 45 名であった。
- 2) ミニシンポジウム「瀬戸内海の漁業資源のいまとこれから」を 10 月 23 日に開催した。参加者総数 30 名のうち日本水産学会会員は 28 名であった。

・九州支部、地域連携関係

塚本会長より、次の報告があった。

- 1) 平成 28 年度日本水産学会九州支部支部大会・総会・例会を 12 月 10 日と 11 日に開催する。
- 2) 支部幹事会を 12 月 10 日に開催する。
- 3) シンポジウム「水産物、水産加工品の高付加価値化のための品質測定・評価手法の開発」を 12 月 11 日に開催する。

・英文書籍監修委員会(特別委員会)

佐藤担当理事より、青木会員と竹内会員が執筆した原稿の査読を行っている旨報告があった。

・東日本大震災災害復興支援検討委員会(特別委員会)

山下担当理事より、次の報告があった。

- 1) 公益社団法人日本水産学会における東日本大震災への対応および震災復興の関連活動(続編)を発行した。
- 2) 日本原子力学会から学会誌の特集企画(東日本大震災と福島原発事故から 6 年 これまでを総括し、これからの展望する)に日本水産学会にも寄稿依頼があったが、過去の類似の特集や本委員も同誌に寄稿していることから、今回の依頼を見送った。

・水産学若手の会(特別委員会)

塚本会長 特になし

・日本水産学会創立 85 周年記念事業委員会(特別委員会)

青海担当理事より、次の説明があった。

- 1) 国際シンポジウム
  - a) 開催に向けてタイムテーブルが示された。
  - b) 参加・発表申込期限を 4 月 10 日から 4 月 29 日に変更する。
  - c) プロシーディングと要旨集の PDF ファイルを保存した USB フラッシュメモリーを参加者に配布する。さらに、それらを国際シンポジウムのウェブページにもアップロードする。
  - d) 参加費の支払いについて、電子決済が出来るようになる 2 月 10 日までは、銀行振込で対応する。
  - e) 大震災関連分野、環境・漁業分野およびバイオ・食品分野の基調講演をそれぞれ行う。現在、それらの講演者を選考中である。
- 2) 史料編纂と研究の動向の編集作業は、順調に進んでいる。
- 3) デジタル版水産学用語辞典
  - a) 基本的なデータの整理はほぼ終了し、冊子体原稿は 7 月までには完成する見込である。
  - b) デジタル版 水産学会のウェブページに掲載し、随時修正できるようにする。
- 4) 9 月 21 日に開催する記念式典について、招待者や内容について検討を進めている。

5) 募金・協賛

- a) 企業、団体および個人会員に、募金趣意書、協賛案内および協賛展示案内を送付し、現時点での企業と団体からの協賛の申込は 14 件、個人からの寄付は 18 件である。
- b) 支部担当理事に支部を通じた企業、団体および個人会員の寄付への協力依頼が再度あった。

・財務検討委員会(特別委員会)

山下担当理事より、Fisheries Science 誌のインパクトファクターの低下への対応策への財政的な援助について検討を始める旨報告があった。

・水産・海洋科学研究連絡協議会関係

塚本会長より、次の報告があった。

1) 第 2 回協議会が 11 月 14 日に開催された。

- a) 日本海洋政策学会が新たに加わった。
- b) 名古屋議定書関連検討分科会で、研究用の生物試料を移動する際に、相手国の規制に則らなければならなくなったことに対する対応を検討している。  
この件について、良永理事より、日本学術会議において提言を検討中である旨、海洋・水産関係では、東京海洋大学と JAMSTEC がコンソーシアムを組み、各国での事例の収集と共有する旨補足説明があった。

2) 公開シンポジウム(成熟社会における持続可能な水産業のあり方と其中長期戦略)が 11 月 18 日に開催された。参加者総数 107 名のうち日本水産学会会員は 34 名であった。

その他確認事項

・日本学術会議会員・連携会員の候補者に関する情報提供について

佐藤総務担当理事より、次の説明があった。

- 1) 日本学術会議会員・連携会員の改選が 10 月に行われる。
- 2) 理事が適任者を推薦し、日本水産学会から推薦する者については会長に一任する。

・事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の提出日程について

佐藤総務担当理事より、平成 28 年度の決算処理等の日程について説明があり、日程に沿って各支部、懇話会及び委員会は対処するよう依頼があった。

・次回の理事会について

佐藤総務担当理事より、平成 28 年度第 7 回理事会を 2 月 11 日 13 時より東京海洋大学品川キャンパスで開催するとの説明があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、15 時 10 分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長(代表理事)及び監事は記名押印する。

平成 28 年 12 月 10 日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長(代表理事)

監事

監事